入選

久保　碧衣（くぼ　あおい）松木中 2 年生

作品名：時間と電子機器

図書：モモ

皆さんは、時間というものを大切にしているだろうか。毎日時間に追われて、自分の時間がなくなってしまうこともあると思う。そんな時に読んでほしいのが『モモ』だ。

この本を読んだきっかけは、あるテレビ番組でモモが紹介されており、そこであらすじを見て、主人公に共感できる部分があったからだ。

モモという少女は想像することが好きで、聞き上手な子だ。しかし、時間を人間から奪う時間どろぼうと出会う。時間を奪われた人間は、我を忘れて怒りっぽくなり、感情のない、ただこなしていくだけのロボットになってしまった。そこで、モモは時間を取り戻すために、時間をつかさどるマイスター・ホラとその使いのカメ、カシオペイアと協力しながら時間を取り戻し、時間を奪われてしまった人々の生活を豊かにしていくお話だ。

私が共感できたところは、モモが想像力豊かだという点だ。この話の中でも、モモと友達が夕立を嵐に見立て、嵐の中を突き抜けていく船を想像して遊ぶシーンがある。

私も想像することが大好きで、小さい頃は延々と想像しては楽しんでいた。しかし、今となっては、私の生活にはテレビやゲームなどの電子機器があふれ、受け身の姿勢になりがちになってしまった。

これは世界でも問題になっており、最近は電子機器所持率が増え、アルコールや薬物などの中毒者とは比べものにならないほど多いと言われている。

だが、残念ながらゲームの中でいくら努力をしても、また、多くのステージをクリアしても、現実の世界の経験値にはならない。たくさんの時間をゲームに使うことは、時間を奪われていることと同じになってしまう。

モモの舞台は少し前の時代のことであるが、時間どろぼうをゲームやテレビなどの電子機器に置き換えることで、現代の私たちにも、とても身近に感じることがで

きると思った。
　私の生活の中で、時間をとらわれている、と感じたのが、本だ。私は本が大好きで、月に何冊も読む。もちろん、本を読むのは良いことなのだが、私は読んだ後の余韻にひたり、何時間も本の世界に入りこんでしまう傾向がある。私は、それが何時間も続くことがある。頭もぼんやりとしているので何も手につかない。これでは、モモの中に出てくる、時間を奪われ、時間にとらわれてしまった人々と同じだ。
　そこで私は、時間を決めて集中して行うことにした。短時間でじっくり余韻にひたる。そうすることで、早めに切り換えることができ、すっきりとした気分で終わることができる。他のことでも同じだ。勉強も時間を区切って行うことで、その間は集中することができる。それでは、テレビやゲームなどの電子機器も、時間を決めて行えばよいのではないだろうか。
　実際に、私の家では、ゲームは一日三十分という決まりがある。そして、携帯電話も制限されているため、あまり見ることはない。しかし、私が大人になった時には、さらに魅力的な電子機器があふれているだろう。そして、そのやりたいという気持ちを一人で抑えなければならないだろう。だから、今のうちから時間と上手くつき合っていく練習をする必要があるのだ。電子機器や、自分の大切な趣味を、「悪者」にしないように、うまくバランスよくつきあっていけるように。
　最後に、私はモモを読んで、自分の生活を見直し、さらに時間の使い方を考えることが生活をよりよくすることにつながった。これからも、本が語りかけてくるものを、自分の生活と結びつけて考え、色々な「気づき」を見つけて生活を豊かにしていきたいと思う。